

## 制度変更下における、ヘルプステーションガルの役割

### ～今後の在り方について～

共同研究者 國松正明、川上有希、木村健二

#### 1.はじめに

令和3年7月1日より、大津市において障害者移動支援制度の制度変更があった。また、同時に対象者について、居宅介護から行動援護、重度訪問介護、個別支援（移動支援）へ支給決定内容の変更があった。この報告では、大津市の移動支援制度が変更されてからの、ヘルプステーションガルの現状、役割、今後の在り方について述べていきたい。

#### 2.制度変更でのヘルプステーションガルの現状

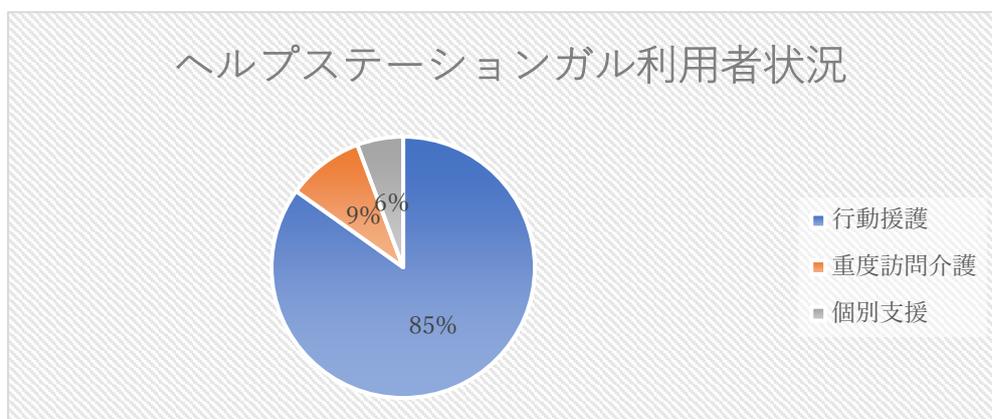
##### ○職員体制について

車両運転可能 8 人（登録ヘルパー含む）、車両運転不可 2 人（登録ヘルパー含む）  
行動援護支援対象職員 8 人（登録ヘルパー含む） 2022.1.1 現在

##### ○依頼状況

現在ヘルプステーションガルでは、行動援護に切り替わった利用者が 8 割を超え、次に重度訪問介護、個別支援の順に推移している状況。

また、居宅介護から行動援護に支給内容が変更されたことで、行動援護のサービスを提供するのに研修終了が必須となり、実施不可の支援員も含まれる為、希望の日時で対応することが難しく、日時変更・時間短縮をお願いすることも多くなっている。



### ○過ごし方について

移動支援事業のうち車両移送については非課税の方であっても費用は負担が生じるようになった。車両内で過ごす時間が増えると、利用者の負担額が増えてしまうため、車両内で過ごす時間を減らしてほしいといった要望、相談が増えた。

その為、ガルでは近場の公園を散歩するなど、車両内で過ごす時間を減らす工夫をした。最初は戸惑われる利用者もおられたが、何度も繰り返すことにより、しっかり散歩することが出来るようになり、過ごし幅を広げることが出来た。

### 3.地域でのヘルプステーションガルの役割と今後の在り方

ヘルプステーションガルは、開所してから22年経過しており、15年以上関わっている利用者もたくさんおられる。小学校、中学校、高校～大人への成長の過程を見守ってきた。長い年月の経過により、利用者の様子を理解していることに関しては、ヘルプステーションガルの強みである。ヘルパーが異動、退職等で入れ替わっても、利用者のことに関して後任のヘルパーにしっかりと引き継ぐための様々な仕組みがあり、ぶれない、統一した支援を継続することが出来ている。

緊急な依頼について、地域の役割として可能な範囲で受けてきた。現状は、十分な対応が出来ず、家族、利用者にご迷惑をおかけしていることもあるが、今後も家族とともに、利用者の成長を一緒に見守っていきたい。

### 4.まとめ

ヘルプステーションガルとして、今回の制度変更は、様々なことの今後の在り方を考える良い機会となった。他事業所、家族、関係機関と連携を取りながら制度変更に対応してきたが、その中では十分に対応出来ないことも多々あり、相談員、障害福祉課等とも連携を取りながら取り組んできた。事業所内で、支援内容の見直しを行う機会ともなり、利用者にとってより良い過ごし方を考えることが出来た。また、職員同士で話し合う中で、制度のこと等を確認することも出来、支援の質を向上していくことにも繋がった。

しかし単価の違いから重度訪問介護、個別支援（移動支援）の利用者のサービスが受けにくくなり、家族の金銭面での負担が増えることによる利用自粛（利用中止、時間短縮）等、必要な人が利用したくても利用しにくい現状も見られた。

最後に障害区分や地域特性などに影響を受けることなく、一人ひとりに寄り添った社会資源の充実、拡充を切に願い、この報告の結びとしたい。